

平成26年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	保護司会事業			
予算科目	3 款 1 項 1 目			
総合計画での位置付け	福祉の向上と保健・医療の充実～やすらぎとぬくもりのまちづくり～福祉施策の向上と充実			
所管課情報	担当課:	福祉課	電話番号(内線):	526
記入者情報	所属長:	渡辺 悦子	担当責任者:	米湊 明弘
事業の性格	法定事務			
実施期間	【開始年度】平成 18 年度 【開始年度】設定なし			
事業の対象	一般市民			
根拠法令等	保護司法			
事業の目的	保護司法に基づき、法務大臣の委嘱を受けて犯罪や非行に陥った人の更生を支援する。「社会を明るくする運動」を計画・実施する。			
事業の内容	伊予地区保護司会へ補助金交付「社会を明るくする運動」の実施(伊予・双海・中山地域)			
改善策の具体的な取り組み(当初)	保護司及び更生保護女性会との連携を深め、「社会を明るくする運動」の実施などについて、より有効的な方策を協議していく。			
改善策の具体的な取り組み	保護司及び更生保護女性会との連携を深め、「社会を明るくする運動」の実施などについて、より有効的な方策を協議していく。			

事業費及び財源内訳					
項目		25年度決算	26年度予算	9月末の執行状況	26年度決算
事業費	直接事業費	1,078	1,163	1,073	1,102
	人件費	406	159	79	159
	合計	0	1,322	1,152	1,261
人件費内訳	人工数	0.05	0.02	0.01	0.02
	人件費単価	8,135	7,954	7,954	7,954
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	406	159	79	159
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	1,484	1,322	1,152	1,261

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	25年度実績	26年度予定	9月末の実績	26年度実績
伊予地区保護司会助成金	千円	874	874	874	

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	5年間の実績
	990	990	990	0	0	2,970

成果指標				
成果指標	各種事業参加者数			
指標設定の考え方	各種事業への参加者数によって、事業の効果を計測する。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標27年度
目標	1500	1500	0	0
実績	1395	1354	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	26年度も、本庁、中山、双海各地区でそれぞれ特色のある「社会を明るくする運動」を実施した。参加者は、真剣なまなざしで頷いていた。人口減・高齢化にも関わらず、参加者数がさほど減少していないが、これからもより多くの人に保護司並びに更生保護女性会の活動を知ってもらい、市民が協力して明るい住みよい社会を築くためにも、それぞれの地区が情報交換して、互いに向上する必要がある。その上で、様々な活動の一層の周知につとめなければならないと思われる			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	地域特性を活かし、旧伊予市・中山・双海でそれぞれ「地域を明るくする大会」を開催している。活動団体会員の高齢化や会員数減少等に伴う後継者不足、さらに、社会風潮である若者世代の無関心などさまざまな課題や問題をかかえながら、現会員は、使命感や奉仕の精神で活動を継続している。地域社会をささえるボランティア団体として、行政の支援は不可欠と考える。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	